

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075500431		
法人名	社会福祉法人 宮田福祉会		
事業所名	照陽園 グループホーム		
所在地	福岡県宮若市磯光2159-1		
自己評価作成日	平成28年9月19日	評価結果確定日	平成28年10月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成28年10月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方々にとって、心地よい環境づくりと日常生活の中で、食事については 食事はおいしく食べられているか、睡眠については、よく眠れているか 排泄については、できるものがきちんとできているかを基本に職員は健康管理をしている。健康であることにより園での生活が楽しく暮らせていることを念頭に、その人らしい生活援助ができることを目標にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年度実施した法人の施設、地域密着型デイサービスやグループホームなどの多様なサービスを紹介した地域交流会は今年度も予定され、ホームの年間の行事や日々の生活をスライドショーで紹介した家族交流会は、毎年予定するほど成功裡に終えている。又、周辺地域の地形や高齢化の実態から、法人施設等を地域住民の避難場所として行政に提案するなど、地域を熟知した運営が実践されている。ホーム理念を具現化するために、入居者の希望や言動を通じてその人らしい尊厳ある生活を日々模索している。そして、医療と連携した看取りでは家族から謝辞はいただいているが、もっと何かできたのではないかと、毎回振り返りを行っている。新任・基礎研修参加を推奨したり、トライアル雇用の試行などで、人材育成に努め、全職員で理念に掲げた住み慣れた地域で生活できる暖かな環境づくりに邁進している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **Aユニット/照陽園グループホーム**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見やすい場所に大きく掲示し、毎朝勤務者一同で唱和することで、入居者とともに生きていこうと実践している。職員は笑顔絶やさず寄り添うことで安心して過ごしてもらうよう支援している。	毎朝、理念を唱和し、入居者の希望や言動を通じて、その人らしさを日々模索している。自宅に帰りたいとの希望から、今何かしたいことがあるかとの問いかけを実践している。	理念に掲げたその人らしい生活を支援するための年間あるいは月間目標を、全職員で話し合われることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事・草刈に参加。餅つきや地域の山笠・神輿・盆踊りなどを通じて交流を深めている。又、法人で地域交流会を開いた。	昨年実施した法人の施設やデイサービス、グループホーム等を見学する地域交流会は、参加者や入居者にも好評であった。運営推進会議で報告したところ、地域代表者からの提案や協力を受け、次回は他地区を対象に開催予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	餅つき等の園内行事に地域の方々を招き、入居者や職員と一緒に作業を行うことで認知症の方々への理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月おきの開催・活動状況・外部評価の結果・改善項目・処遇困難事例の検討・事業計画及び報告等を話し合っている。	前回の運営推進会議は、指定を受けた地域密着型デイサービスと同日に開催している。入居者の状況や行事等を報告し、地域包括支援センターからはヒヤリハットについて質問があった。作成した議事録は公表している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーである地域包括支援センターの職員を通じて、市役所とも協力関係を築くよう取り組んでいる。	市主催のふるさと祭りに地域同業者協議会のGHみやわかとしてバザーの出店を予定している。管理者はGHみやわかの今年度の会計を務めている。又、GHみやわかの研修会に市職員を講師にお願いするなど、日頃から連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒防止として危険物の除去、ベットからの転倒防止としてベットの高さ調整・トイレに行きやすい位置に設置するなど身体拘束防止につとめている。	外出傾向のある入居者はいないが、落ち着いた言動がある場合は、重点的な見守りや声かけで気分を変えている。言葉遣いや「ちょっと待って」が拘束になることも理解している。障がい者施設の事件から、夜勤帯の職員数を考慮し、防犯カメラの設置を検討したいと、管理者は話している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体の会議の中で虐待防止について、勉強会を開き、言葉遣いにも再確認した。又虐待防止マニュアルを作り直しそれに則りつとめている。宮若市グループホーム協議会での勉強会にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度及び日常生活自立支援事業について勉強を実施、又宮若市グループホーム協議会での勉強会参加、必要であれば入居時本人や家族にこの制度の説明を行っている。	隣接する法人施設の入所者で、成年後見制度利用者もあり、管理者は制度等について理解している。現在まで、グループホーム入居者の制度等の活用はない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書をもとに十分な説明を行い、ご理解・納得を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族からの意見が常に聞けるように玄関に「ご意見箱」を設置し、又行事等の際家族と懇談しながら意見を伺い、運営に反映させている。昨年度より家族交流会を7月の第三日曜日に開催、意見交換を行っている。	家族交流会は、年間の行事や日々の生活を紹介したスライドショーを見た家族から、驚嘆の声が上がるなど、意見の表出を促す好機となっている。今年も、交流会だけではなく入居者対象の忘年会にも家族の参加を呼びかける予定である。また、年2回担当職員が個々の入居者の暮らしぶりを家族に送付している。	運営推進会議の内容について家族交流会で報告し、会議設置の目的をさらに周知し、家族に理解や協力をお願いされることを期待します。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理事長が年2回職員と面談し意見等を聞き、運営に反映させている。	管理者、各ユニットリーダー、職員と其々が役割を担う体制が構築され、月1回2ユニット合同で定例会議を開いている。入居者の好きなカラオケ、センサーマットの購入など、率直な意見を出し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表を作成する際、休みの希望日を聞き休める工夫をしている。又資格取得のため研修等をするなど配慮している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	求人募集については、特に採用基準を設けていない。新規職員に対しては、職場の環境整備、介護知識を得るための指導等を行い、いきいきと働けるように配慮している。又毎月勉強会を開き 介護力アップに努めている。	法人として職員を採用し、ホームに入職している。トライアル雇用もあり、入職者のペースと業務内容のすり合わせを試行している。昨年度介護支援専門員資格を取得し、介護計画作成担当者として就労したり、職命で新任・基礎研修に参加する職員もあり、人材育成に努めている。シフトが配慮され、昼休みも休憩室で交替でとれている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	全職員対象に年度初め 倫理規定のもと人権教育を行っている。	法人全体で人権研修が計画され、毎年開催されている。虐待防止マニュアルを整備し、常に言葉使いや対応の指導が行われ、理念の入居者の尊厳を守るケアに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の年間研修計画の下、研修を行っている。外部研修後は法人全体で伝達する場を設ける。介護技術等の研修では、併用施設の特養職員が指導している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	宮若市グループホーム協議会で毎月1回の勉強会で交流を図り、情報交換やサービスの質の向上に努めている。又職員間の交流会にも参加し親睦を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居1ヶ月は、環境の変化で戸惑い・不安が生じるため 常に職員が寄り添い・信頼関係を築けるよう努力している。入居前の処遇会議・入居2週間後の会議のもと 職員の介護ケア統一を図っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期に限らず、来園時等に家族とのコミュニケーションをとっている。又入居初期段階で状況の変化等少しでも見られた場合は、電話等でお尋ねする等関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の処遇会議で検討し、どのようなサービスが必要か見極めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方々の知恵をお借りしながら、毎月10日の手作り昼食等 とともに暮らしている関係を築く努力をしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とともにできる行事や家族交流会等を通じて、ともに支えあっていく関係を築くように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	火渡り・盆踊り等の地域行事に参加できるよう支援している。	入居者の平均年齢が90歳となり、家族の高齢化も進んでいるが、地域行事を見学したり、ホームに巡行した山笠を家族と楽しんでいる。地域交流会で来所した地域の方と談笑する入居者もあった。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の趣味・近所同士等でグループ活動するなど、気のあった人がお互い支えあっていけるよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には、必ず声かけを行い、必要ときはいつでも相談してくださいと支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に状態観察を行いながら、今までの生活と変わりなく過ごせるよう努め、また訴えのできない方の希望・意向の把握に努めている。	アセスメントシートを整備し、把握した情報は定例会議や担当者会議等で共有している。食事摂取量が少なくなったり、視力障害や被害妄想などの状態や言動を通じて、其々の思いや意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接でその人の生活歴等を聞き、サービス提供の資料にしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の能力・心身状況を把握し、ケアプランの立案・見直しをしながら状況の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	処遇会議には全職員が出席し、それぞれが意見を出し合い、それをもとにケアプランを作成している。	アセスメントで把握した入居者の課題やモニタリング結果を担当者会議で話し合い、介護計画の作成や見直しを行っている。夜間窓からのぞかれるとの被害妄想のある入居者の居室の窓等を段ボールで遮光し、安心して入眠できるように支援したり、声を荒げるなど他の入居者と馴染めない方にとって、どのような環境や対応が心地よいのかを模索している。	入居者の生活しづらさを軽減する具体的な目標やケア内容を記載し、理念に掲げたその人らしい生活の支援を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護日誌をもとに職員間で情報を共有し、実践やケアプランの見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の宿泊施設はないが、遠方から家族の来園の際は、入居者の部屋に泊まれるよう援助し、ゆっくりと入居者と家族が過ごせるよう、柔軟なサービスを提供している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々とのつながりを大切にし、安全に暮らせるよう努力している。しかし入居者の重度化も進んでいる中、本人の心身の力を発揮できることが難しくなっている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診のほか、本人・家族の希望を聞きながら、適切な医療が受診できるよう支援している。	内科や歯科の定期的な訪問診療を受け、インスリンの注射や定期的な血糖検査を支援している。内服薬の中止の指示で終末期から回復された入居者もあり、医療と適切な連携が実施されている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康観察で本人の健康状態を把握し、異常が見られたら主治医の指導のもと、入居者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今日個人情報関係で身体状況を聞くことが難しく、家族から情報を聞きながら、病院のソーシャルワーカーと連携をとっている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末ケアについて説明を行っている。重度化された入居者については、家族へ再度説明。園での終末ケアの希望及び同意書をいただいている。	これまで3名の看取りに関わり、現在も6名の入居者が看取りを希望されている。家族から謝辞はいただいているが、もっと何かできたのではないかと振り返り、会議録を整備している。管理者は昨今、家族の終末期で経験した苦悩から、今後も家族の動揺を受け止めながら、看取りに関わる予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・緊急時対応のため、必ず年1回法人全体で勉強会を開く。その際消防署の指導のもと、心肺蘇生術・AEDの使い方を勉強している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回 昼夜設定の避難訓練を実施している。入居者がスムーズに非難できるよう訓練を行っている。地域住民の避難場所にと提案中である。(解答待ち)	法人全体で災害委員会が設けられ、火災だけではなく、水害や地震などの自然災害の対応を検討している。今月は消防署立ち合いで、夜間対応の避難訓練を実施予定である。前回の訓練では非常通報ベルが押せず、手順をやり直したり、点呼していない入居者があるなど、訓練ならではの経験をしている。	市指定の避難場所が遠方であることや、周辺は自然災害危険地区や限界集落でもあり、提案が承認され地域住民の避難場所として地域に周知されることを切に期待します。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護について入居契約書や職員契約書に明記している。管理者は入居者・家族に個人情報の利用目的(ブログ掲載等)を説明し、同意をえている。処遇会議で常に言葉遣いや尊敬の気持ちを持つことを確認している。	地域の入居者も多いため、つい馴染みの声かけをしてしまい反省することもあると、管理者は話している。穏やかな対応や声かけが、BPSDを軽減することを理解しながら、日々のケアを実践している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活を通じて常に本人の思い・希望を聞きながら支援している。又訴えることができない方の表情・行動を把握することで支援を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強要せず、一人ひとりの状況・状態に合わせたペースで支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、整容等支援し、又行事等参加の際はお化粧・おしゃれをして楽しんでいただけよう支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け等の準備を職員とともにやっている。又体調によっては食べたいものを別に提供している。	法人の厨房で一括調理された副食はソフト食もあるが、咀嚼や嚥下に応じてホームできざみやすりおろすなどの工夫をしている。心身の状況に応じてテーブルを分け、其々のペースで食事ができるように、声かけや見守り、食事介助をしている。調査日食欲がなく昼食時間を過ぎて、好みのカップ麺を食べる入居者の姿が見られた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養の管理栄養士の指導のもと行っている。又定期的に体重・身長測定も実施。水分に関しても一日の水分摂取量を記録し、脱水状態にならないよう注意している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、協力医療機関であるみずほ歯科の衛生士による指導も受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者の排泄パターンを把握し、誘導を行うことにより、排泄の自立支援をおこなっている。	居室にトイレが設置されている利点を活かし、自力でトイレに行けるようにベットが配置されている。排泄パターンに応じて、トイレに誘導したり、オムツや尿取りパットの活用しながら、排泄を支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の記録とともに、便秘傾向の入居者には、水分・食物繊維の摂取に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望の時間に沿ってはないが、各ユニットの入浴日を交互にすることで、毎日の入浴を可能にしている。	週3回の入浴を支援している。片方のユニットにリフトが設置され、車イス利用者も浴槽に浸かっている。職員が2人体制で支援したり、入浴を億劫がる入居者には声かけや時間帯をずらしたり、他方のユニットで入浴してもらうなどの工夫をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣・身体状況を常に把握し、休息等安心して暮らせるよう支援を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回の往診・主治医の指導のもと行っている。又状態変化が見られる場合は、主治医に連絡するなど服薬管理を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	軽度の家事作業(洗濯物たたみ等)を支援し、日常生活に張り合いをもっといただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援は入居者の重度化により限られているが、ショッピング・花見等努力している。その際家族・地域の方々の協力はなかなか難しく得られない。	行事が記載された事務室の黒板には定期的な外出支援が掲載されている。職員と買い物で外出する入居者もいるが、限られているのが現状である。家族と外出する入居者もある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居の時金銭所持については、お断りしている。外出支援の時、おやつ・衣類等の購入をしてもらっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置しているので、いつでも電話できるようにしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	前庭に花壇・畑を作り、居間から見えるように窓際・テレビの前にソファを置いている。季節の野菜を植え、楽しんだり、ゆっくりテレビ鑑賞もできている。床材はクッション材を使用、音が響かないよう配慮している。	園芸委員の活躍で、玄関両脇の庭や共用空間の植木鉢の季節の花々や野菜、観葉植物が、入居者や来訪者の目を楽しませている。広い共用空間を囲んで居室が並び、椅子やテーブル、衝立等仕切られた空間はソファやテレビが置かれている。空調も管理され、パズルに興じたり、ソファでテレビを見ながら寛ぐ入居者もある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い共有空間なので、居場所作りの工夫はできている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたタンス・お仏壇等により、入居者本人が安心して過ごせるよう配慮している。	○○邸と記載された居室は、窓の障子が落ち着いた雰囲気を作っている。自作の塗り絵が飾られ、家族写真や日用品、仏壇などが持参され、其々に居心地よく暮らせる居室づくりをしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援のもと、浴室にはお風呂とわかるよう暖簾をかけたり、居室には一人ひとりの表札・文字の大きなカレンダー・時計など環境整備に心掛けている。		